



森の国の学び舎

茂木町立茂木中学校改築工事落成記念

教育は100年、植林は50年の

町有林を活用した町の歴史と 町民の心に残る学び舎づくり



「町有林を活用した町の歴史と町民の心に残る学び舎づくり」を基本コンセプトに、旧逆川財産区の町有林の樹齢 70 年から 90 年の杉、桧を活用し、茂木中学校の改築に取りかかりました。

旧逆川財産区は、大正 2 年から当時の河原源九郎村長が先頭に立ち、将来の財政への寄与を図り、全戸出役により 150ha の山林に杉・桧の苗木 65 万本の植林を続け、昭和 56 年まで下草刈りや枝打ち、間伐作業を行ってきました。

その後財政難から平成 8 年に町へ移管されましたが、子孫の繁栄を願う先人達の偉業、地域住民が受け継いできた歴史が樹木と共に

朽ち果ててしまわないよう、旧逆川財産区の樹木を中学校改築事業に活用したいと考えました。

町有林にかかわってこられた多くの皆様に心からの敬意を表し、最長 12 m の丸太材や無垢の梁材を利用した構造を採用し、天井、壁、床などの内装もすべて無垢の板材で仕上げています。

木造校舎は、鉄筋コンクリート造にくらべ、柔らかかで温かみと潤いのある教育環境と、落ち着きや安らぎを与える効果が期待できると言われています。さらには、町の林業の活性化や学校での教材としても活用できると考え事業に着手しました。



屋内運動場



玄関と格天井

逆川村公有林記念碑「けいたくごうちよ惠澤洽著」の碑

私たちの祖先の人々が約100年間にわたり平和で明るい豊かな村を築くために、村民一丸となって焼森(約150ha)に苗木を植え、手入れを続けてきた。祖先たちの尊い血と汗の結晶が「焼森」である。

その結果、村の財政や村民の生活は豊かになり、教育環境の整備として小中5校が建設され、納税完納の「模範村逆川」として天皇陛下より賞詞を賜った。

この偉業は子々孫々に至るまでその精神を忘れてはならない。(碑文要約)

昭和26年 文 参議院議員 徳川宗敬
書 東京都知事 岡田周造



児童生徒の校外学習から



木材の確保状況

平成17～18年度に旧逆川財産区の2ヶ所の町有林(約30ha)から、上層間伐により丸太材約630本、構造用角材約5,000本、床板材約10,000枚、腰板材等約30,000枚、合計で約1,580㎡の材料を確保しました。上層間伐と集積作業、丸太材は皮むき搬出、自然乾燥用ストック作業、さらに角材・板材の搬出、製材、自然乾燥用ストック作業を芳賀地区森林組合に委託し、旧クラリオン跡地で仮設の



町有林の伐採(上層間伐作業)

木材調達の一連の作業内容



丸太材の皮剥き作業



防腐剤の散布



1本1本の寸法を検測